

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

## 高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 191 号 (2026 年 3 月号)

# いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5  
Tel & Fax 087-867-2302  
<http://izumichurch.holy.jp/>  
発行人 宮地 宏一



先月 8 日、高松では珍しく猛吹雪で雪がうっすら積りました。子どもたちは雪をかき集めて、小さな雪だるまを作って楽しそうでした。それでも冬は年々短くなっているようです。寒いのも苦手ですが、暑すぎるのも身体に堪えます。過ごしやすい春が一日でも長く続くことを願っていますが、花粉症の方には辛い時期ですね。



今月、長女と長男がそれぞれ、中学校と小学校を卒業します。この間、「よく頑張ったね～」なんて話しながらウルウルした私に「もう泣いてる！」と呆れ顔の妻と子どもたち。卒業式には涙腺が崩壊し、バスタオルが必要かもしれません笑

今月も神さまからの恵みが、お一人お一人の上に豊かに注がれますように。 (2026.03.01)



### ずっと見守られて

私の好きなテレビ番組の一つが日曜日の夜にテレビ東京系列で放送されている【家、ついて行ってイイですか?】です。街中を歩いている普通の人に「タクシー代をお支払いするので、家について行って良いですか」と番組スタッフが声をかけます。OKが出たら一緒に家まで行き、部屋の間取りや家賃を聞いたり、冷蔵庫の中身などを見せてもらうのです。

しばらくすると「普通の人生で、面白い話なんか何もない」とおっしゃっていた人たちが、ぽつりぽつりと自分の身に起ったことを話し始めます。それらは決して普通の人生ではないのです。ご自分の病気や家族との別離、失敗や後悔・挫折など、涙なくして聞くことができない話が多い。

私はこの番組を毎回見ながら、普通に見える全ての人何かしらの重荷を抱え、それらを誰かに分かち合いたいと願っていることに気づかされました。また、私がこの番組を好きな理由を思い巡らしたとき、私は共感し、励ましを受けたかったのだと思わされたのです。

どんなに辛い境遇であっても前を向いて歩みを進める人々と自分を重ね合わせ、「そうだ、オレも頑張ろう」と生きる勇気をいただく。私たちの物語は、私たちだけの物語ではなく、他の人を生かし、励まし、支える物語。そう考えると、私たちに今、与えられている労苦は決して無駄ではないことが分かります。一方で、私

たちに与えられた労苦を、一人で抱え込む必要はないのです。人は一人では生きられません。支え支えられながら、励まし励まされながら、人

生の荒波を共に乗り越えて行くのです。

ある本に、突然、視力を失った 30 代半ばのアメリカ人女性の話が載っていました。人一倍独立心の強かった彼女は、一瞬にして自信と力が失ってしまうのです。彼女の夫は、どうにかして彼女が自信を取り戻し、仕事に復帰できるように取り計らいます。そのためには一人でバスに乗って職場に行く必要があったのです。最初、彼女は一人でバスに乗ることなど不可能に決まっていると思いました。





でも彼女の夫は、彼女が一人でバスに乗る**勇気が出るまで**毎日、朝晩付き添うと約束してくれたのです。2週間後、彼女は一人でバスに乗ると**決意します**。月曜日、火曜日・・・そして金曜日の朝、彼女がいつものようにバスに乗ると、運転手さんが彼女に声をかけたのです。「あんたはいいねえ」「どうして、いいねえなんて言うのですか」「だって、あんたみたいに大切にされて、守られていたら、さぞかし気分がいいだろと思ってさ」「どういう意味なの?」「ほら、今週ずっと、ハンサムな軍人が通りの向こうに立って、あんたがバスを降りるのを見守っていたんだよ。そして無事に通りを渡って、オフィスに入っていくのを確かめていたんだ」

彼女は一人でオフィスに通えるようになったかと思っていましたが、彼女は一人ではありませんでした。ご主人がずっと彼女を見守ってくれていたのです。この事実には彼女はどれほど力づけられ、ご主人の愛を深く知ることになったのでしょうか。

さて旧約聖書の創世記に**ヨセフ**という人が登場します。彼は12人兄弟の11番目で、父ヤコブのお気に入り。それが兄たちの反感を買って、兄たちによって奴隷として売られ、エジプトに連れていかれるのです。これは彼にとって考えられないほど**大きな試練**でした。でもヤコブは主人の心にかない、奴隷なのに主人の家のすべての財産を管理するようになります。

その彼に**さらなる試練**が襲ってくるのです。今度は主人の奥さんの策略によって、投獄されます。その監獄で、彼は監獄の長に気に入られ、囚人すべてを管理することになるのです。この後、彼は**エジプトのNo2**にまで上り詰めます。

はたから見ると彼の人生は試練に次ぐ試練で、かわいそう。にもかかわらず、彼は行く先々で成功します。この理由を聖書は「**主(神さま)がヨセフとともにおられたからだ**」と語ります。目が見えなくなった奥様を、ご主人がいつも見守っていたように、主なる神さまはどんなピンチのときでも、**ヨセフとともにあり**、彼を助け出されました。このことに気づいた彼は自分を売って、苦しめた兄弟たちと再会したとき、次のように言って彼らを赦すのです。

「**あなたがたは私に悪を諮りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました**」どんなに兄たちが自分を苦しめても、主なる神さまが共にいてくださったから、**今の自分がある**。この確信があったからこそ、彼は兄たちを赦し、彼らに平安を与え、優しい言葉をかけることができたのです。

私の人生を振り返ってみても、主なる神さまが絶えず共にいてくださったことがわかります。出口が見えない**長く暗いトンネル**を歩いていた時にも、つまずき倒れそうになっていた時にも、涙で目の前が見えない時にも。しかも主なる神さまは、ただ共にいてくださっただけでなく、時にかなって**ふさわしい助け**を与えてくださいました。このように主なる神さまが私たちとともにいてくださることは、私たちにとって何よりも大きな力であり、励まし。この人生に決して**間違いはない**のです。今日も、主なる神さまはお一人お一人と共にいて、見守ってくださいと信じます。



**あなた(神さま)は前から  
うしろから私を取り囲み  
御手を私の上に置かれました。[聖書]**



- **礼拝** 毎週日曜日 10:30~12:00
- **イズミン・キッズ** 毎週日曜日 9:30~10:20
- **おやこ de えほん** 毎週水曜日 10:30~12:00



\* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。  
上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。